

農具市と民具の流通

—美馬市美馬町での聞き取りからたどる箕の形態—

民俗班（徳島民俗学会）

磯本 宏紀*

要旨：旧美馬町において、安楽寺の農具市をはじめとして複数の農具市が開かれてきた。この農具市は、農具を含む民具の流通にも深く関与してきたものである。市には、買い手、売り手それぞれが参集し、同時に民具などのモノの移動もみられた。本稿では、聞き取り調査によりこれらを総体として把握しようと試みた。その結果、安楽寺などの農具市を介した民具の流通の一端が明らかになった。

キーワード：農具市，民具，流通，箕

1. はじめに

旧美馬町において複数の農具市が開かれてきた。これらは、各寺院の年中行事にあわせて開かれる市であり、そこに集まる人びとをターゲットにしたものであった。その農具市では、買い手は寺院の檀家など近隣住民が多数を占める。一方の売り手は、旧美馬町内だけではなく各地から商品をもって市に参加していたと考えられる。

本稿では、この農具市をめぐって市の運営者（売り手）、市での買い手、および場所を提供する寺院にわけて聞き取り調査を行い、農具市にかかわる人びとを総体として把握しようと試みた。そのなかで、注目したのが、ほかの民具とともに購入され、使用されてきた箕の形態である。

なお、本稿にかかる聞き取り調査は、平成20年8月1日、5日、6日、12月14日、28日の5日間で実施したものである。

2. 美馬市美馬町における農具市

農具市は、「農具が売買される市。社寺の縁日や

祭日に立つ市のとき、ほかの品物とともに扱われることが多い。（中略）農山漁村の人々は暮らしの折りに立つこの市で、普段ではなかなか入手できない農具を購入した。たとえば、養蚕の箆など、そこで求めたものには神仏の加護があると考えられる場合もあった。」（佐藤広，2000：319頁）とされる。売買をとまなう交易の場であると同時に、市の場所となる社寺や神仏とのかかわりのある場所であり、神性を帯びた商品であるとされる。

市の分布図では、美馬市美馬町内では美馬町字切久保、美馬町（旧郡里町）、美馬町（旧重清村）での「お寺市」を確認することができる（徳島県教育委員会ほか編，2001：88-89頁）。この分布図の調査は、大正年間を対象として昭和52年から53年にかけて行われたものであるため、現存しないものも含まれている。

この美馬町（旧郡里町）および美馬町（旧重清村）での「お寺市」は、『美馬町史』にも「安楽寺の市」と「猫の窟市」として記述される。「安楽寺の市」では12月28日が農具の大市、春の市は4月第4日曜日に、「猫の窟市」は旧10月23日に農具市が開かれ

* 徳島県立博物館

ているとする（美馬町史編集委員会，1989：1210－1211頁）。

美馬市美馬町で現在行われているのは、安楽寺の春と冬に行われる農具市である。2008年12月28日には、衰退する市を維持するため、寺側が働きかけて1軒の植木屋を頼んで出店してもらっているのみであった（写真1）。このほか、規模は小さかったが西教寺、願勝寺常念寺での春市や、中上野の虚空蔵市などが開かれていたという。



写真1 2008年12月28日の安楽寺の農具市のようす

3. 農具市での購入と訪れる行商など

購入については、個別の家の事情や個人による差異が見受けられるが、大きな安楽寺の市での購入事例が多数確認できる。

◎事例1（丈寄地区）

籠屋が何種類もの籠を安楽寺の市にもってきていたので、それを買った。口上がうまいので、買わされてしまったこともある。カラサオの軸と打棒部分も農具市で買い、柄の部分は自作して使った。

箕は、大箕と小箕があるがいずれも農具市で売っていたものの、大きいので行商が来るのを待って買った。箕の行商は「山の人」だった。吉野川の対岸の貞光か半田から来ていた（写真2）。

安楽寺の住職が相栗峠を越えて行っていた。塩江方面にも檀家があるためである。同じく塩江に粉をひく水車があり、小麦をもって行ってうどん粉と交換してきたことがあった。

夕食がすんだすっかり暗くなった時間帯、丈寄から谷を挟んだ脇町方面の尾根を見ると、尾根つたいに10も20も明かりが続いて登っていくのを家族全員



写真2 事例1で購入した大箕

で見た。隣近所も見ていた。家のすぐ横を通ることもあったが、近くの家からは見えず、少し離れた家から見ていたという。これを狸の火と呼んだ。

◎事例2 清田地区

箕や籠を安楽寺の農具市で買った（写真3）。



写真3 事例2で購入した大箕

◎事例3 藤宇地区

安楽寺や常念寺の農具市に行っていた。刃物は市に出ているなまくらではなく、土佐の職人によるものを買った。

籠や箕（大箕，小箕）の店は多く、よい品物を売る店もあった。もってくるもので淘汰されていたようである。細くつるっとしていてトゲがたたないなめらかな竹籠が質のよいもの。戦後すぐには大箕の場合1,000円から2,000円が相場だったが、昭和30年ころには1万円を越していた。質の良い大箕を買うと30年ほど使えるので、高くても良いものを買った。

籠などの竹細工、鍋釜などの金物などは年に1度くらい地廻りの直し屋が来ていた。質の良いものを

買っていると直しにも耐えられる。三頭峠を越えて讃岐方面から来ていた。阿波町や市場町から竹細工の職人が来ていたが格が落ちるような籠だった。

正月には美馬町内から三番叟も来ていた。祝儀にお金と餅を渡していた。

白装束のヘンドも来ていた。取り締まりがあり昭和30年ころには来なくなった。

◎事例4 藤宇地区

泊まり込みで廻ってくる職人がいた。籠などをつくる竹細工の職人と桶職人が香川県や阿波町方面から来ていた。材料になるマダケは50日ほど前に切って乾燥させておかなければならない。昭和40年頃まで来ていた。カラサオの軸の部分をつくる職人がきたこともあった。

昭和6年に発動機を農機具屋から買い、麦こなしの時期にはリアカーについで脱穀の依頼を受けて美馬町内を廻った。発動機は安楽寺の市（涅槃市）のときに注文した。

三番叟も2人づれで来ていた。美馬町内から来ていた。一字町方面からも女性2人づれで来ていた。三頭越えをしてきた「御大師さん」が子を負っていたこともあった。

◎事例5 藤宇地区

大箕、小箕、包箕、籠など竹細工を西教寺の市で購入していた。今使っているのは30年ほど前（昭和50年前後）に買ってきたものという。竹細工は、つくりにくくなるように連絡し、材料を用意しておいて廻ってきたらつくってもらう。

大箕は2種類の箕を保有しているが、いずれも農具市で購入した。それぞれそのときどきで、異なる店で買ったものである（写真4・5）。



写真4 事例5で購入した角竹のある大箕



写真5 事例5で購入した角竹のない斜めに編んだ（網代編みの）大箕

4. 農具市にくる行商

農具市にくる売り手は、籠屋、棒屋、鍛冶屋などの農具を扱う行商から、苗物屋や植木屋、駄菓子やみかんを売る人までさまざまな業種が確認できる。

◎事例6 丈寄地区

安楽寺の冬の市に行っていたが、竹細工の人は赤門の外で売っていた。安楽寺のお講さんのとき、日が暮れてから売り手が集まってきて準備をしていた。

◎事例7 藤宇地区

農家の副業で籠をつくった人がもってきて冬に売っている。昭和30年くらいから鍛冶屋は来なくなった。

◎事例8 安楽寺

旧11月28日が市立ての日であり、現在は12月28日に冬の農具市が行われる。かつては香具師のグループが多かったが、警察の手入れが入っていたこともあった。

遠方から峠を越えてくる行商が多く、市の日に雪が降ると帰れなくなった。安楽寺内や美馬町近隣の同業者宅に泊まって帰る業者もいたが、大勢の人で混雑していた。

◎事例9 宮西地区

安楽寺の赤門付近では、箕、ケンド、籠など竹細工を売っていた。門の外、下の方には食べ物を売る店が多かった。30年くらい前（昭和50年前後）には100軒あまりの店が出ていたが、2008年には1軒のみである。春には20軒程度の出店がある。

子供のころに楽しみにしていたのが、コウジミカ

ンの店だった。小遣いをもらって買いに行ったのが記憶に残っている。

5. おわりに —箕の流通についての検討—

以上の事例について整理すると、買い手側は比較的近隣地域の住民が多く、しかし、安楽寺の場合報恩講と同日に開かれることから、一部には遠方から訪れる門徒もいた。一方の売り手の場合、近隣の業者もいたが、美馬町外から訪れる業者も多数いたという点に着目したい。たとえば、それが箕や籠などある程度職能を要求される職人であった。

その中で、注目すべき事例もあった。事例5では、それぞれ異なる箕を2点農具市で購入していて、複数の産地からの流通であることがわかる。写真4・5それぞれの箕を比較すると、写真4の箕に角竹がついていて、縦横で編み込まれている竹箕であるのに対し、写真5は斜めに編み込まれていて縦に角竹をつけない形態のものである。一見しただけでも形態差は明らかであり、異なる職人によるもの、すなわち、異なる産地からの流通が想定できる。

しかし、これについての詳細を明らかにするには

美馬町外から訪れた職人等の聞き取りも必要であったが、今回の調査では至らなかった。

旧美馬町内での調査ではこの点について明らかにできないため、今後は箕の産地における調査も必要であり、課題としたい。

謝辞

本稿作成にあたり、聞き取り調査等でとくに以下の方々にお世話になった。ここに記して感謝申し上げます。(敬称略・五十音順)

加藤アサ子、千葉昭彦、中川カネ子、中川富子、長浦勝幸、西岡義隆、三好富夫、三好八重子、山口絹子

文献

- 磯本宏紀 (2008) : 農具市における露店の空間配置, 徳島地域文化研究 6, 178-180頁.
- 佐藤 広 (2000) : 農具市, 福田アジオほか編『日本民俗大事典・下巻』吉川弘文館.
- 徳島県教育委員会ほか編 (2001) : 『都道府県別日本の民俗分布地図集成 第11集 四国地方の民俗地図 徳島 香川 愛媛 高知』東洋書林.
- 美馬町史編集委員会編 (1989) : 『美馬町史』美馬町.